

⑤ 植物

吹田市全体にはどこにどんな植物があるのか、それらの植物がどのような状況かを調べました。

植生分布調査

■ 調査の方法

航空写真を使って、市内のどこにどんな林などがあるかを地図に書き写し、「植生図」を作りました。これを持って現地に出かけ、ひとつひとつ確かめて回りました。結果は、前回分の地図と一緒に、地理情報システム（GIS：Geographic Information System）というコンピュータ・システムに入力しました。今後、人口や土地利用など他のいろいろなデータと重ね合わせて使うことができます。（この報告では、13~14 ページに完成した植生図を載せています。）

■ 調査の結果

吹田市には、街路樹や人工的な公園などが多く、自然の林などはあまりありません。（両方を合わせて「みどり」と呼ぶことにします。）

市内最大の「みどり」は万博記念公園で、広い芝生やさまざまな林・草地・池などがあります。それ以外では、千里北、千里山田西公園～千里緑地、紫金山公園などに大きな竹林、樹林や草地などがあります。また、市内のあちこちに急な斜面や農地などがあり、やや小さな「みどり」が残っています。ため池には、岸付近等に少しだけヨシなどの水辺の植物が生えています。なお、阪急山田駅東側と千里丘では農地や林などが、JR吹田操車場跡地では広い草地が、それぞれ大きく減りました。

「千里の竹林」で有名な竹林は、豊中市に接する春日から桃山台にかけて広がっていて、高野台～山田～万博記念公園～山田丘にもやや小さな竹林が点々とあります。これらは開発などでじわじわと減ってきています。

これらの調査結果と大木調査結果（NPO 法人すいた市民環境会議提供）を重ね合わせてみると、それぞれ地形や町の成り立ちから来る地域の特徴がいくつか読み取れました。

前回の「みどり」の面積は 678 ㊦（緑被率 18.8%）でしたが、今回は 682 ㊦（緑被率 18.9%）で、少し増えました。竹林やコナラ林などが混交林（タケや落葉樹と常緑樹の混じった林）になったり、草地が減って庭園（植え込みなど）が増えており、町がきれいに整備される一方で、林などの手入れをしなくなってきたりしているようすがうかがえます。

※ 緑被率の調査方法などについては、25 ページを参照してください。



北千里の景観



フローラ調査のようす



千里の竹林



農村的環境の代表 ヒガンバナ

植物相調査

今回、吹田市内で記録された植物は 156 科 1089 種で、そのうち現地調査では 763 種でした。(前回は 127 科 657 種の植物が記録され、このうち現地調査では 610 種でした。)

分布をみると、北千里、山田西のように北にある大きな緑地では自然の林などに含まれる種が多く種類も豊かで、千里丘や片山公園などのように規模が小さく周囲を宅地などに囲まれた緑地では人工的な環境を好む植物が多く種類数も少ない傾向が見られました。また、貴重な植物であるギンラン、トキラン、ミズオオバコ、ヤマサギソウなどが見つかった一方で、増え過ぎやすい「特定外来生物」のオオカワフジシャ、オオキンケイギク、ナルトサワギクなどがかなりの数で見つかりました。



イノデ



ウツボグサ



モチツツジ

植物群落調査

植物が形作っている林や草むらなどをひとまとまりの“植物の社会”(群落)と見なして、市内 6 区域の中の 64 箇所を調査しました。

自然に近い林としてはアカマツ林、コナラ・アベマキ林などがあり、そこにはヒサカキ、モチツツジ、イノデなどの特徴的な植物が含まれていました。また、人工的なクスノキやハリエンジュなどが植えられた林や植え込みなどもたくさんありました。小さな空地などには、ヌルデやクズなどを含んだ“マント群落”(ツル植物などの群落)ができていました。

一方、草に目を向けると、人工的な造成地などには広々としたタチスズメノヒエ群落などの草地があり、狭いところには他の背の低いイネ科の草(低茎草本)やセイタカアワダチソウなどのやや背の高い草(高茎草本)による草地が多く見られました。



タチスズメノヒエ(低茎草本)群落



高茎草本群落